doi:10.14951/JSNC.17.01.02

■ 編集委員会から

It is time to move on

吉永恵一郎
心臓核医学編集委員長
独立行政法人放射線医学総合研究所　分子イメージングセンター

学会の在り方について日本心臓核医学会の理事会にてこの数年議論が続いています。学会会員の学術研究の意見交換および教育はそのなかで最も大きな役割をもつものと思われます。昨年7月に松山市で開催されました心臓核医学会学術集会では多くの優れた発表があり、活発な意見交換が繰り広げられました。このつぎの課題は学会員の研究成果を発表する場を学会が提供していくことかと思います。前回の心臓核医学誌から原著論文が掲載されるようになりました。この大きな一歩をさらに発展させることにつき検討が進んでいます。

昨年7月の心臓核医学会理事会にて中嶋憲一編集委員長が学会副理事長になられたため、編集委員のなかから、私が編集委員長の任を引き継ぐこととなりました。私の任は学会誌のさらなる発展を目指すことで、重要な課題が学会誌の国際化であります。先の学会でも多くの貴重なデータが発表されました。これらは今後の心臓核医学の臨床・技術の発展に寄与するものであります。これらの貴重な成果を国内だけでなく、世界へ発信しより多くの研究者および臨床現場で活用していただけるように心臓核医学会の雑誌が役割を担うことができればと望んでいます。そこで2015年の8月号から当面年に1号の予定で新たな英文誌を発刊することとし、現在準備を進めております。新雑誌名はAnnals of Nuclear Cardiology（ANC）といたしました。この雑誌の方向性は研究および教育の振興です。この雑誌では高いImpact factor（IF）の取得を目指すものではありませんが、寄稿していただく会員の方々のためにもIFの取得は必須と考えます。IF取得の要件を満たした刊行内容としていく次第であります。IFの取得には年間一定数の投稿論文が必要であります。投稿数を確保し、雑誌のレベルを向上していけば4年後以降にIF獲得の可能性があります。

ANCでは総説、原著論文、Images for Nuclear Cardiology（新規性のある画像・教育的画像）の投稿を開始しております。英語で論文を書けば幅広い方からfeedbackを頂ける可能性があります。その意味で特に若手の研究者の方々に研究成果を英語でまとめていただき投稿していただきたいと思います。編集委員は若手の研究者の方への投稿論文に対してはsupportiveに対応していくこととしています。

このANCを通じて、世界へ日本の心臓核医学研究の学術成果をアピールしていくことができ、これまでより広い意見交換ができる場に作り上げていければと願う次第であります。会員の方々にこの新雑誌へのご支援を頂戴できればと望む次第であります。